Ⅰ.「学習項目一覧と段階的目標基準（生活のための日本語）」開発に向けて

金田　智子

１．　研究の趣旨

現在，日本語教育基盤情報センター学習項目グループでは，調査研究事業「日本語教育における学習項目一覧と段階的目標基準の開発」（平成 18 年度～22 年度）に取り組んでいる。今後，日本で生活する外国人はますます増えていくことが予想されることから，外国人が**社会の一員**として地域社会に根付き，職場や学校等で活躍できるよう，身に付けるべき日本語能力とは何か，生活者としての外国人にとって必要な日本語とは何かを検討することは，国内における外国人の受け入れ拡大に関わる重要課題である。本調査研究は，国内外の先行事例を参考にしつつ，具体的な調査データをもとに学習項目一覧と段階的目標基準を開発することにより，日本語学習内容の選定・カリキュラム作成，教材や試験の作成における基盤的な資料を提供しようとするプロジェクトである。

これまで，日本語教育の世界では，中国帰国者，難民，研修生，留学生，ビジネス関係者等に対しての日本語教育の内容・方法が広く開発されてきた。同時に数多くの教材が開発され，日本語の能力を測るテストも複数存在している。日本語教育の環境はかなり整備されてきたと言えるが，就労を目的として来日した外国人に対する日本語学習支援，学習の到達目標の明確化，そして，日本社会全体の日本語学習者や在住外国人に対する理解促進などにおいては，十分とは言えない点がある。たとえば，日本国内で実施されている教育プログラム，教材，テストなどの全体を見渡してみると，量的にも質的にも充実しているにもかかわらず，相互の関連性は見えにくい。これは日本語の学習者全体にとって，あるいは外国人を受け入れる日本社会にとって，不利益な状態をもたらしているのではないだろうか。

今回，本プロジェクトを立ち上げるにあたっては，すでに存在しているシラバスや教材をもう一度見直し，同時に学習者というものを今までの枠組みにはよらず,「生活者」あるいは「生活」という側面に焦点をあてて捉え直した。そして，彼らが**日本社会の一員**として生きていくうえで必要な日本語を検討することはできないかと考えた。

２．　研究の方法

この調査研究が始まってから 3 年間，複数の作業を進めてきた。まず，国内外の先行事例や先行研究の概観を行った。国内の日本語教育に関しては，中国帰国者，難民，研修生などに対する教育内容比較のための情報収集を行い，同時に国内に流通している初級教科書の分析を行った。海外については，移民等外国人の受け入れの歴史がある国々（アメリカ，ドイツ，オランダ，韓国，カナダ，オーストラリア）を対象に，情報収集を行った。

アメリカ，オランダ，ドイツ，韓国については，訪問調査も実施し，特に，アメリカとオランダにおける移民等に対する自国語教育のシラバスについて，その歴史的な背景や各種法律，理論的枠組み，作成過程，学習項目，カリキュラム，評価方法等を調べた。

また，国内在住外国人の言語使用実態や学習ニーズに関する調査研究に関する報告書を収集し，一覧化すると同時に，調査結果を概観した。そして，国内在住の外国人がどのような生活場面で日本語を使用しているのか，どのような日本語学習ニーズがあるのかについて，インタビューやダイアリー記述による調査と，全国規模の質問紙調査（科学研究費による）を実施した。並行して，コミュニケーション能力に関する研究，キー・コンピテンシーなど，現代社会に生きる者にとって必要な能力に関する研究について調べた。

以上の過程を通じて，「学習項目一覧と段階的目標基準（生活のための日本語)」の枠組みを検討し，項目一覧の整備に向けて作業を進めた。本調査研究で行う各種作業と，「生活のための日本語」の関係は図１のとおりである。

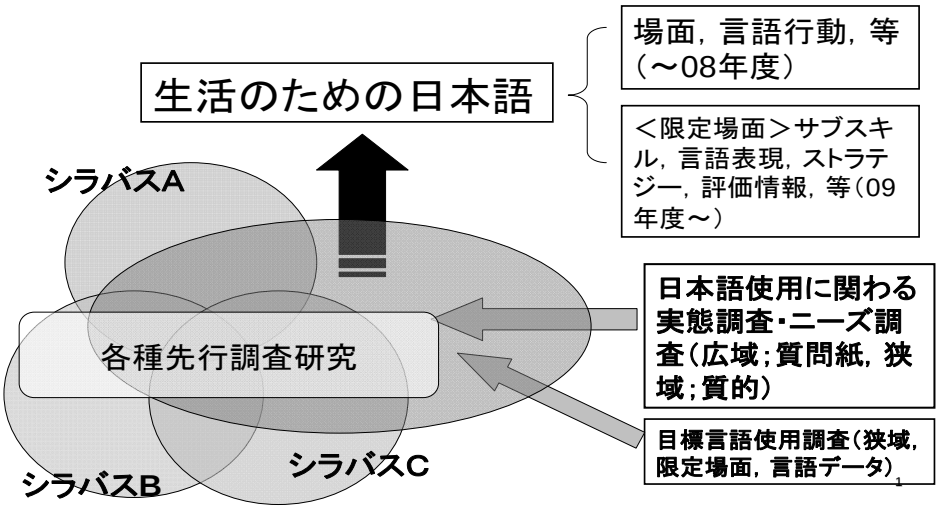
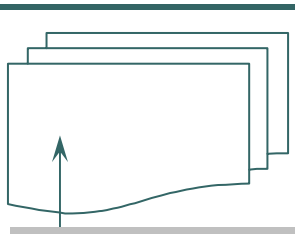


図１　「生活のための日本語」とその策定方法との関係

項目一覧のイメージは図２に示したとおりである。これは現段階の案であり，今後，「段階的目標基準」の要素を組み込んでいくことにより，全体の枠組みが変わる可能性がある。また，本報告書で紹介するのは，この一覧の左に位置する，「領域」「場面」「言語行動」のみである。また，これら「領域」「場面」「言語行動」の各項目及び名称も暫定的なものであり，今後，項目の整理及び項目間の包含関係などの精緻化を予定している。

領域	場面	言語行動	要望／難易等	スキル／サブスキル	知識	語彙	＜一部場面について＞ 言語表現
教育	中学校	子どもの担任と進路について相談をする	（使用実態調査及びニーズ調査の結果に基づく）	読む／手紙；情報を得るために読む，指示を読む 書く／申し込み用紙；名前を記入する，希望日時の印を付ける 話す／情報を要求する，情報を提供する，明確化要求をする，助言を要求する，希望を伝える	日本の学校体系，入試制度，授業料，奨学金制度…	高校，普通高校，普通科，商業高校，商業科，工業高校，工業科，公立，私立，付属，受験，入試，内申書，筆記試験，面接…	 ○実際の接触場面（日本語非母語話者と母語話者，非母語話者同士のやりとりの場面）で収集したデータ。 ・音声，映像 ・ストラテジー ・非言語行動 ・評価データ　等
教育	中学校	高校入試説明会に参加する		読む／手紙；情報を得るために読む，指示を読む 話す／情報を要求する，情報を提供する，明確化要求をする	日本の学校体系，入試制度，授業料，奨学金制度…	高校，普通高校，普通科，商業高校，商業科，工業高校，工業科…	

［図 2　「生活のための日本語」一覧のイメージ］

３．　「領域」「場面」及び「言語行動」一覧の作成過程

本報告書では，これまでの作業を踏まえて作成した「学習項目一覧と段階的目標基準（生活のための日本語）案」のうち，「領域」「場面」及び「言語行動」を紹介する。これは，移民政策の先進国であるアメリカとオランダにおける自国語教育（移動先の言語）の内容と，日本国内における中国帰国者向け教育の内容の比較対照結果を基礎に，生活のための日本語や地域日本語教育に関する各種調査の分析結果をはじめ，各種作業から得られた知見をもとに作成したものである。

一覧の基礎に据え，比較対照を行った資料は以下の 3 種である。尚，これらの資料に関しては，次節で詳述する。

（１）日本：中国帰国者定着促進センターが中国帰国者向けの教育内容として開発した「目標構造表」。

（２）アメリカ合衆国：成人教育の評価専門機関 CASAS（Comprehensive Adult Student Assessment System）が作成した，成人対象 ESL 教育の内容に関するスタンダード。

（３）オランダ：移民等を対象とした市民統合テスト（Inburgerings examen）出題のためのシラバス。「オランダ語の達成目標（Eindtermen Nederlandse taal)」と「オランダ社会に関する知識の達成目標（Eindtermen kennis van de Nederlandse samenleving)」）からなる。

これ以外に，自国語教育の目標基準としては，オーストラリアの CSWE（Certificate in

Spoken and Written English）やカナダの CLB（Canadian Language Benchmarks）などがあるが，いずれも，言語に関する知識・能力を枠組みとしている。それに対し，今回の一覧の土台となった上記 3 種のシラバスは，それぞれの社会で生きていく人が，どういった場面・状況でコミュニケーションを行うことが期待されるか，そのための知識・能力は何なのかということを明らかにしたものである。「社会の一員」として活躍できるようになるための日本語，「生活」あるいは「生活者」に焦点化した日本語教育を考える際には，個々の文脈，つまり，一人一人が生きている生活や人生の各種場面を中心に据えることが重要だと考え，これら 3 種を主な分析対象とすると同時に，一覧の土台とすることとした。

これら 3 種の比較対照結果（福永・金田・黒瀬 2008，金田・福永・黒瀬・武田 2008）に，他の先行研究から得た知見を加え，「領域」「場面」「言語行動」を整理した。「領域」としては，以下の 7 種類を設け，領域の番号が若いほど，生活の基盤・根幹に関わるものとなるよう順序付けを行った。

領域 1　生命：身を守る
領域 2　生活：最低限の生活を守る
領域 3　市民：市民としての義務を果たし，権利を行使する
領域 4　交流・地域参加：他者と交流し，地域社会の一員となる
領域 5　仕事：経済的に自立する
領域 6　子どもの教育：子どもを育てる
領域 7　自身の教育：よりよい生活を営む

各領域には複数の「場面」が設けられている。たとえば，「領域 2　生活：最低限の生活を守る」には，安全，消費，金融，移動，住居，通信，情報収集がある。「言語行動」については，複数の行動を伴うような一連の行動を表すものを「言語行動」とし，それを成立させる行動を「下位行動（1)」に，さらに細分化されるものを「下位行動（2)」とした。これらは，たとえば，以下のような関係となっている。

言語行動：近隣に引越しの挨拶をする。
↳ 下位行動（1）：・退去時にあいさつをする。
・入居時にあいさつをする。
↳ 下位行動（2）：自己紹介・自国紹介

4．「知識」の扱いについて

3 種のシラバスに共通することとして，言語能力の領域と同様に，社会に関する知識の領域が重視されていることが挙げられる（福永・金田・黒瀬 2008)。それぞれの場面で適

切な言語行動を取ろうとすれば，社会に関する様々な知識が必要であることは言うまでもない。また，社会の中で不利益をこうむらないため，あるいは，生活を豊かにするために，その社会の制度，歴史，思考様式，情報収集の方法など，社会に関する知識を得ることは重要である。最終的な「学習項目一覧と段階的目標基準」には，「知識」を含める必要があるが，今回の一覧では，「領域」「場面」「言語行動」のみを取り上げるため，「知識」については枠組みに示すにとどめる。

５．　全国規模の質問紙調査について

本調査研究に関わる研究として，学習項目グループでは，同センター評価基準グループ（宇佐美洋グループ長，森篤嗣研究員，吉田さち研究補佐員）とともに，科学研究費（課題番号：20320074）による質問紙調査を実施している[1]。この質問紙調査は，在住外国人の日本語使用実態及び学習ニーズを明らかにすることを目的に，全国規模で行うものである。質問紙には，在住外国人を対象にしたものと，日本人を対象にしたものがあるが，外国人対象の質問紙では，14 の生活場面（あるいは，テーマ），105 の言語行動について，接触頻度，日本語による可否，日本語学習ニーズの有無をたずねた。この 14 場面，105 項目は，国内先行調査研究，国内外の移民等対象の自国語教育内容・到達目標等を参考に，集約・厳選したものである。14 場面とは，以下の通りである。

飲食店，買い物，交通手段，金融機関等，住居，役所・公共機関，医療・福祉，
緊急事態，自宅，地域交流，学習・余暇，保育園・幼稚園・小中学校，求職，職場

105 項目を設定するにあたっては，次の 4 つの観点を重視し，具体的な言語項目に反映した（金田 2008e）。

①「社会の一員」の視点
　例）・自治会で意見を言う
　　・＜職場場面＞作業の進め方等について改善のための提案や相談をする
②「生涯」の視点
　　・カルチャースクールや職業訓練校など，学習のための機会や場所を探す
　　・子どもの進路を決めるための情報を集める
③「書く」コミュニケーション
　　・＜保育園・幼稚園・小中学校＞先生からの連絡ノートに返事や子どもの様子などを書く
　　・家族や友人にパソコンでメールを書く
④　現代性

・ドライブスルーで買い物をする
・駅の券売機で電子マネーにチャージする
・ネットで部屋を探す
・役所福祉課にデイサービス等，介護に関することについて相談する

この 105 項目は，本報告書のⅢで紹介する一覧に含まれており，今後，105 項目の分析結果を一覧に反映する予定である。

注

[1] 科学研究費による調査（「生活のための日本語」に関する調査研究）については，当研究所ウェブサイトの以下のページを参照のこと。
http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/reseach/

参考文献 ＊主なもの

＜中国帰国者関係＞
黒瀬桂子（2008)「中国帰国者に対する日本語教育の変遷」『平成 19 年度成果普及セミナー報告書　生活者にとって必要な「ことば」を考える』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター
小林悦夫（1990)「中国帰国者に対する日本語教育の目標と試み」『AJALT』13 号，14-18，国際日本語普及協会.
田中望・藤田正春（1983)「中国帰国者用日本語教材の開発」『日本語学』Vol.2 No.3, 68-82，明治書院.
中国帰国孤児帰国孤児定着促進センター（1987)『中国帰国孤児定着促進センター　大人・青年コース指導項目表』.

＜アメリカ関係＞
福永由佳（2008a)「アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『平成 19 年度成果普及セミナー報告書　生活者にとって必要な「ことば」を考える』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター.
福永由佳（2008b)「米国における，「生活者」のための言語教育－成人基礎教育・識字教育の観点から－」『第 17 回小出記念日本語教育研究会予稿集』
福永由佳・金田智子（2008)「定住型外国人対象の自国語能力テストの社会的役割－オランダ、アメリカの事例から－」『日本言語文化研究会論集』第 4 号，1-18，国際交流基金日本語国際センター・国立国語研究所・政策研究大学院大学.
Burt, M. and Keenan, F. (1995) Adult ESL Learner Assessment: Purpose and Tools(ERIC

No. EDO-LE-95-08).
CASAS (2005) *ESL Appraisal(Form 20) Edition2.1.*
CASAS (2003) *CASAS Competencies: Essential life skills for youth and adult.*

＜オランダ関係＞
金田智子 (2008a)「オランダにおける移民等に対する自国語教育の内容について」『平成19年度成果普及セミナー報告書　生活者にとって必要な「ことば」を考える』国立国語研究所日本語教育基盤情報センター
金　千佳 (2000)「オランダにおける外国人参政権の意義と位置付けー移民たちの国籍と市民権ー」『日蘭学会会誌』25, 日蘭学会.
杉本明子 (2006)「第２言語としてのオランダ語検定試験の導入とその社会的影響」国立国語研究所編『世界の言語テスト』くろしお出版.
福永由佳・金田智子 (2008)「定住型外国人対象の自国語能力テストの社会的役割ーオランダ、アメリカの事例からー」『日本言語文化研究会論集』第 4 号, 1-18, 国際交流基金日本語国際センター・国立国語研究所・政策研究大学院大学.
吉田信 (2003)「移民から市民へーオランダ移民政策にいる統合パラダイムの転換」『日蘭学会会誌』28, 日蘭学会.
ALTE(2008) *ALTE members: Cito.*
(http://www.alte.org/members/dutch/cito/index.php)　2009年3月1日参照。
Bureau ICE・Cito (2006) *Eindtermen kennis van de Nederlandse samenleving.*
Bureau ICE・Cito・ITTA (2006) *Eindtermen Nederlandse taal.*
Ministry of Justice (2006) *Eindtermen inburgering.*

＜その他＞
金田智子 (2008b)「日本語教育における学習項目一覧と段階的目標基準の開発」『平成 20年度日本語学校教育研究大会予稿集』20-25, 日本語教育振興協会.
金田智子(2008c)「『生活のための日本語』のとらえ方ー先行事例,実態調査から考えるー」, 国立国語研究所編『日本語教育年鑑 2008 年版』43-53, くろしお出版.
金田智子(2008d)「学習者の多様性と多面性にこたえる日本語教育とは」『日本語教育研究』15, 5-14, 韓国日語教育学会.
金田智子 (2008e)「『生活のための日本語』を再考する」『日本語学習支援ネットワーク会議 08in AKITA 午後の部：第 3 分科会』(予稿集) 1-6, 日本語学習支援ネットワーク会議.
金田智子・福永由佳・黒瀬桂子・武田聡子 (2008)「生涯発達の視点から見るコミュニケーション能力ー『生活のための日本語』探求のためにー」『日本語教育世界大会 2008 予稿

集』279-282.
国際移住機関（2008)『外務省；静岡県・国際移住機関共催「外国人住民と社会統合に関する国際シンポジウム」バックグラウンド・ペーパー　在日日系ブラジル人の現状と今後の課題』
国際日本語普及協会（2003)『「リソース型生活日本語」目次翻訳』
＊同協会のウェブサイト（http://www.ajalt.org/resource/）から，目次詳細に関する情報入手。
日本語教育基盤情報センター学習項目グループ編（2008)『国立国語研究所内部報告書平成19年度 成果普及セミナー「生活者にとって必要な『ことば』を考える」』. 2009年3月31日現在，国立国語研究所の以下のウェブサイトでダウンロード可。
（http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/nihongo_syllabus/seika/)
NIRA・シティズンシップ研究会『多文化社会の選択－「シティズンシップ」の視点から』日本経済評論社.
福永由佳・金田智子・黒瀬桂子・武田聡子（2008)「『生活のための日本語』の学習項目一覧作成に向けて－国内外の自国語教育内容の分析をもとに－」『2008年度 日本語教育学会春季大会予稿集』183-184.
ライチェン＆サルガニク（2006)『キー・コンピテンシー－国際標準の学力をめざして－』明石書店.
労働政策研究・研修機構編（2006)『労働政策研究報告書No.59　欧州における外国人労働者受入れ制度と社会統合－独・仏・英・伊・蘭5カ国比較調査－』労働政策研究・研修機構.